【参考資料】 日本橋再生計画第2ステージまでの振り返り

日本橋の歴史

江戸時代



日本橋は大量高速輸送手段であった水運の拠点となり、 江戸町人地として発展。

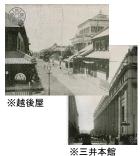
江戸の経済、金融、商業、物流、文化の中心に。日本中から、人・ もの・ことが集まり、新しい産業や文化が生まれる土壌が育って いった。日本橋を含む当時の江戸は、あらゆるものの中心として、 世界でも類を見ない賑わいを見せていた。

日本橋は、今でいうベンチャー企業のような チャレンジャーが集い、 新しい産業や文化を次々と輩出

繁栄から衰退へ



※日本銀行



日本銀行の日本橋への移転や、 三越の開業など、明治以降も 日本橋は金融・商業の中心地として 繁栄をみせていた。



※関東大震災時の三越周辺



※関東大震災時の中央通り



※建設中の首都高速道路

1923年関東大震災で日本橋から魚河岸が移転。その後1945年には東京大空襲で一帯が焼け野原とな るも、戦後は再び街の賑わいを取り戻した。

1963年日本橋上空に首都高速道路の建設。高度経済成長の時代の中で金融街・商業街としての地位 を維持したが・・・

山一證券の倒産や東急百貨店の閉店などにより、金融・商業両面でその勢いを失うことになる。

衰退と繁栄を繰り返す日本橋。90年代後半にその中心性を失う。

日本橋再生に向けて

低迷からの脱却を図り日本橋エリアの活性化を目的に、1999年「日本橋地域 ルネッサンス100年計画委員会」が設立される。

日本橋に本社を置く三井不動産は、官民・地域と一体となった「日本橋再生 計画」に着手し始めた。





日本橋再生の流れ

日本橋再生計画

日本橋再生計画は、創業の地の街づくりという点でも特別な位置づけ。 都市の未来の在り方を示す、モデル事業と言える。

三井不動産は、日本橋エリアにおいて官・民・地域一体での「日本橋再生計画」を推進しています。 2004年「COREDO日本橋」の開業を皮切りにスタートした「日本橋再生計画」では、「COREDO室町」等に代表される、商業・オフィス等が融合したミクストユースの施設開発を展開しています。また、2014年「COREDO室町2・3」の開業を契機にスタートした「日本橋再生計画第2ステージ」では、「産業創造」「界限創生」「地域共生」「水都再生」の4つのキーワードを元にした、ソフトとハードの融合による街づくりを推進しています。

日本橋周辺エリアの代表開発物件

2004	日本橋一丁目三井ビルディング(COREDO日本橋)		第		
2005	日本橋三井タワー		第 1 ステー		
2010	室町東三井ビルディング(COREDO室町1)		-37		1
2014	室町古河三井ビルディング(COREDO室町2) 室町ちばぎん三井ビルディング(COREDO室町3) 福徳神社 日本橋ライフサイエンスビルディング	日本橋			
2015	日本橋ライフサイエンスハブ	日本橋再生計画		第 2 ステ	
2016	日本橋ライフサイエンスビルディング 2 福徳の森	画		ステージ	
2018	OVOL日本橋 日本橋髙島屋三井ビルディング				
2019	日本橋室町三井タワー(COREDO室町テラス)				第
2022	八重洲二丁目北地区				第 3 ステ
2025	日本橋一丁目中地区				9

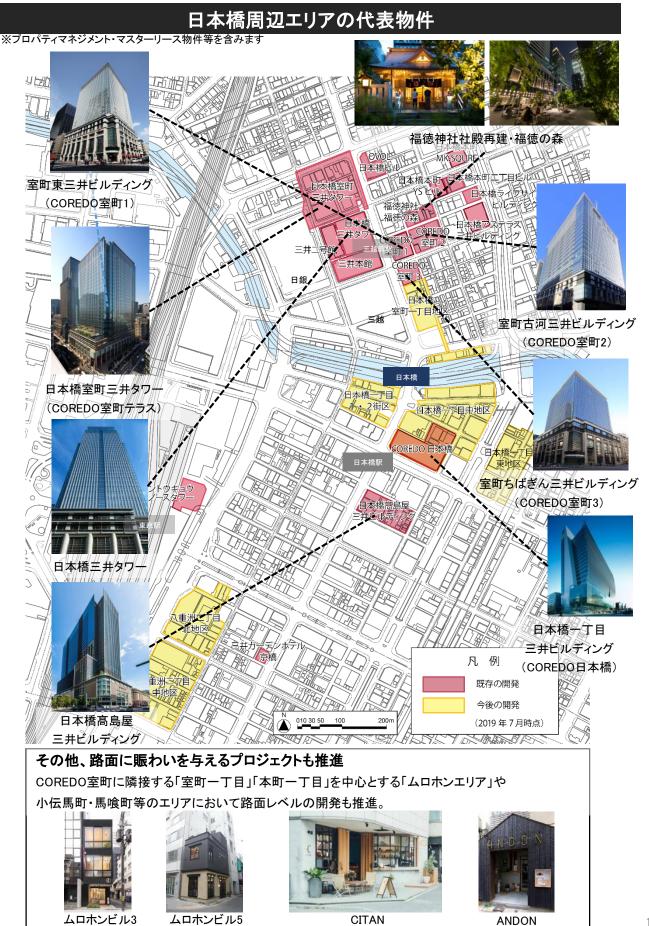
※プロパティマネジメント・マスターリース物件等を含みます

【開発コンセプト】

「残しながら、蘇らせながら、創っていく」

【第2ステージテーマ】

ソフトとハードが高次元で融合した街づくりの推進「産業創造」「界隈創生」「地域共生」「水都再生」



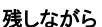
日本橋再生計画

開発コンセプト

「残しながら、蘇らせながら、創っていく」



重要文化財の並ぶ景観の維持の ため、建物前面の高さを揃える ルールを継承



建造物 伝統ある老舗 街の歴史や文化



地域コミュニティの拠点である 「福徳神社」の社殿を再建

蘇らせながら

街の景観水と緑賑わい



日本橋の文化や歴史を活かしたイベントを官民一体で創出

創っていく

次世代に向けた 新たな街の魅力 「日本橋オリジナル」の発信

4つのキーワード

「産業創造」「界隈創生」「地域共生」「水都再生」

2014年のCOREDO室町2・3開業からスタートした日本橋再生計画第2ステージでは、「産業創造」「界隈創生」「地域共生」「水都再生」の4つのキーワードをもとに、ハードとソフトが融合した街づくりを推進。



【産業創造】

日本橋の街に地の利のある産業のオープンイノベーションを促進。第2ステージまではライフサイエンス領域に注力。



【地域共生】

日本橋を支える街の温かいコミュニティと 協調する街づくりを推進。地域防災力の向上 や地元一体型のイベント開催等に取り組む。



【界隈創生】

路地に賑わいを生み出す街づくりを推進。 路地の維持・整備や、ビルのリノベーション 等による路面店舗活性化等にも取り組む。



【水都再生】

江戸時代日本橋の繁栄を支えた「水運」。 かつての賑わいを水辺に取り戻すため舟運 の活性化や親水空間の再生等に取り組む。

【第2ステージ】4つのキーワードに基づく街づくりプロジェクト

産業創造

伝統と革新に挑む気概を支援し、新たな産業を創造する

製薬系企業が多く立地する日本橋の特性を活かし、ライフサイエンスイノベーション分野における産業創造を推進。時代に先駆けた最新鋭のオフィスビルを多数供給するだけでなく、コワーキングスペースなど、豊富なオフィス環境を整備。LINK-Jを母体に様々なイベント等を開催し、オープンイノベーションの機会創出を支援。

第2ステージでの重点領域:ライフサイエンス

<ライフサイエンス分野で活躍するプレーヤーの活動拠点の整備>

①日本橋ライフサイエンス拠点



<u>②三井のラボ&オフィス</u>

ライフサイエンス領域の日本型エコシステムを構築



- ①日本橋ライフサイエンスビルディング ②日本橋ライフサイエンスビルディング2
- ③日本橋ライフサイエンスハブ ④東硝ビルライフサイエンスフロア ⑤MFPR日本橋本町ビル
- ⑥LAUNCH日本橋人形町 ⑦福島ビル ⑧上野ビル

入居テナント数約90社(2019年8月時点)

くLINK-J((一社) ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン)によるコミュニティ構築>

数多くのイベント・プログラムを実施



会員数の推移



オープンかつ30人以上のイベント・プログラム数 443件/年

【第2ステージ】4つのキーワードに基づく街づくりプロジェクト

界隈創生

日本橋の歴史・文化を活かした街づくりの実現

賑わいを再生させるため、店と通りが一体となって、日本橋オリジナルなエンターテインメントゾーンを創出。 歴史と文化が息づく路地の魅力をいかして、回遊性を考えた散策が楽しい街づくりを目指す。



歩きたくなる路地空間を創造し賑わいの連続性を生みだす



地域の多様な魅力を発掘する



日本橋ウエストエリアにおける ムロホンビルプロジェクト ~地域と連携した街並みづくり

地域のコミュニティ拠点を整備



日本橋イーストエリアにおけるモデル事業 ~1階に店舗を誘致し路面の賑わいを創出

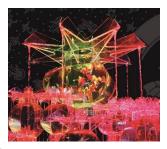
【第2ステージ】4つのキーワードに基づく街づくりプロジェクト

地域共生 人間と自然を尊重した循環型の街づくりへの挑戦

古くから受け継がれるコミュニティや文化を大切に後世に受け継ぐ。そしてそこに関わることができるまちを目指す。来街者や居住者、就業者が、万が一の時でも安心して滞在することができる機能や仕組みを備える。



地域連携で開催する「日本橋桜 フェスティバル」はエリアの一大 イベントとなった



「アートアクアリウム」日本橋の 風物詩に



福徳神社を起点とするワーカー コミュニティの醸成(福徳神社神 幸祭)



帰宅困難者の一時避難場所 である江戸桜通り地下歩道



周辺地域への電気・熱の安定供給で、環境性能と防災力を向上

水都再生かかっての舟運機能の再生

かつて舟運都市であった日本橋を、再び水都東京の拠点として再生する。世界を代表する都市は、水辺の景観を上手に生かし賑わいを生み出している。だれもが利用したくなる水辺環境を日本橋川に創出する。





2011年日本橋船着き場を整備以降、舟運観光が本格化



首都高の地下化が決定、日本橋の未来に 明るい光が蘇る